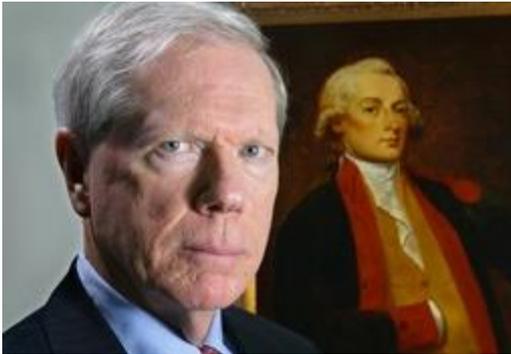


西側世界の道徳的退廃——イスラエル - ガザ事情

July 29, 2014

Paul Craig Roberts (前レーガン政府閣僚、Source: Paul Craig Roberts)



読者はイスラエル - ガザ情勢について私の見解を尋ねてくるが、驚いたことに、オックスフォード大学な有名な討論会、オックスフォード・ユニオンが、この問題についての討論に私を招待してくれた。

私は、オックスフォード・ユニオンの要求に応えるだけの幅広い準備をしなければ、パレスチナの人々に対して責任を果たせるような討論は今の所できないと回答した。私のオックスフォードでの前の経験以来あまり変わっていなければ、このユニオン討論では、論敵のすべての論点を予想し、ユーモアとウィットでそれを論破できなければ勝つことはできない。事実が勝利することはあまりない。そしてそこにユーモアとウィットを加えても、浸透したプロパガンダによって、すでに聴衆が結論をもっている場合には、勝つことはできない。私の満杯のスケジュールでは、そんな準備をするだけの時間もエネルギーもなく、飛行機旅行の余裕もない。

そのうえ、私はイスラエルのパレスチナ占領について、専門家ではない。ただ普通の人よりは知識をもっている。私はシオニストの宣伝から、多くの人々のおかげで救われ、正しく考えるようになった。現在のイスラエルによるパレスチナ人の殺戮——あの悪鬼のようなイスラエル指導者ネタニヤフが今回は「長期戦」と呼んでいる殺戮——をとらえる方法は一つしかない。我々はまたしても、あの“偉大な道徳的西側”に支えられた、イスラエルの戦争犯罪を目撃している。この道徳は、MH17機の300人の乗客の死にあまりにも心を痛めた結果、世界を大戦争へと追い込もうとしている。その間もパレスチナの死者数は大変な勢い

で増え続け、コラムにその数を載せたときにはもう時代遅れになっている。子供、女性、老人の被害者が特に目立つ。

西側の新聞を読み、西側の TV を見、西側のラジオを聴いていると、イスラエルがガザを攻撃するのはパレスチナ人が悪いからだという宣伝漬けになる。マレーシア旅客機の悲劇はロシアに責任があるという宣伝も同じである。何も証拠はない。しかしプロパガンダは証拠を要しない。ただ繰り返せばよい。

あのガザ地区、「西岸」の家や村から追い出されたパレスチナ人で一杯のゲットーは、食べ物少なく生活が困難な、地球上で最も人口の密集した地域の一つである。イスラエルは現在、ガザを 44%縮小しようとする過程にある。そして米上院の多数派リーダー Harry Reid 民主党員は、イスラエルによる殺戮とパレスチナ人の縮小を財政援助する、税金による米ドルの、もう一つの“緊急援助”枠を準備している。

<http://www.thedailybeast.com/articles/2014/07/28/as-israel-enforces-its-buffer-zone-gaza-shrinks-by-40-per-cent.html>

<http://www.informationclearinghouse.info/article39255.htm>

<http://news.antiwar.com/2014/07/28/senate-leader-israel-may-need-more-us-aid-for-war/print/>

人は当然、“偉大な道徳的西側”は、イスラエルと、ワシントンの手先であるキエフ政府に対する制裁を議論しているのだろうと考えるであろう。彼らは、市民の家とアパート建築群と地方のインフラストラクチャーを爆撃しており、その人々は、自分たちの選んだ政府でなく、ワシントンの決めたロシア嫌いの政府に反対しているのだから。しかし偉大な道徳的西側は、死と破壊をもたらす者を援助しているのであって、犠牲者を援助しているのではない。

パレスチナ人たちは、土着アメリカン・インディアンの場合と同じように、持ち物を奪われ、絶滅させられようとしている。折にふれて、イスラエルの高官たちは、自分たちは、好ましくない者たちを土地から除くアメリカのやり方に倣っているだけだ、と言ってきた。そこで、西側世界の偉大な道徳の退廃の一つについて、私の考えを述べてみたい――

イスラエルは盗みと殺しによって、パレスチナに侵入しようとしている

シオニストたちが何十年も世界に教え込もうとしてきたように、イスラエルは批判されるべきものではない。イスラエルを批判するのは、ユダヤ人嫌い、反ユダヤ主義者、それにユダヤ人をガス室に送り、油揚げにしたがる者たちだけである。イスラエルは批判を超越している。なぜなら、イスラエル人は神の選民であり、神の選民であるにもかかわらず、ホロコ

ーストを経験したからである。

これはイスラエル政府が、ワシントン政府と同じく、何でも好きなようにでき、批判を超越しているということを意味する。

1940年代以来、シオニストたちは、パレスチナ人からパレスチナを奪おうとしてきた。パレスチナ人の大多数は自分の家と土地から追い出されている。彼らは他国の難民キャンプに住み、150万人はガザのゲットーに押し込まれているが、その一方はイスラエルによって、他方は、ワシントンからカネをもらったエジプト人たちによって、ブロックされている。

これによって、イスラエルが時々、ガザの市民とインフラストラクチャーを武力攻撃するには都合がよくなっている。この時点でイスラエルは、最近の戦争犯罪で、ほとんど女性と子供からなる 1,200 人以上を殺している。アメリカのメディアは破壊の写真をめったに載せないが、RT (ロシア・トゥデイ) はいくつか載せている。<http://rt.com/news/175852-gaza-ceasefire-death-toll-thousand/>

イスラエルは常に攻撃者でありながら、常に被害者の役割を演じている。パレスチナの女性と子供はすべて人間以下、あるイスラエルの政治家が言ったように“蛇ども”で、秘密のトンネル (フセインの大量破壊兵器と同じく存在しない) をくぐって潜入し、イスラエル人がカフェで平和に哲学の問題を論じているときに、腰に着けた爆弾を爆発させて自分もろとも罪のないイスラエル人を吹き飛ばすのだという。この罪のないイスラエル人の虐殺をやめさせるために、イスラエルは、パレスチナの病院、学校、市民の家やアパート群などを爆破しなければならないのだ。

こうした紛れもない戦争犯罪、人類に対する犯罪は、世界の偉大な道徳的調停者、つまりイスラエルに対して指を振るのではなく、ロシアに対して拳骨を振るう西側の諸政府によって、すべて無視されている。

西側諸政府はイスラエルの戦争犯罪を無視しているが、西側のすべての国民がこの無視に同調するわけではない。何千何万という反イスラエル・デモをする人々が、南米、ロンドン、パリ、ドイツ、ダブリン、そしてイスラエル自身のテル・アビブの通りに押し寄せている。<http://rt.com/news/175860-london-gaza-protest-march/> しかしアメリカの体制メディアが、こうしたデモの様子を報道することはめったにない。

アメリカの体制メディアは、ロシアに 300 人の死の罪を負わせるために、東部ウクライナのマレーシア旅客機の撃墜に焦点をあてている。米体制メディアにとっては、1,200 人のパ

レスチナ人の殺害は起こっていないか、いたとしても、パレスチナ人など問題でない。彼らが、イスラエルの圧迫に耐えかねて、原始的なロケットを撃ち返しても、ほとんどの的に当たることはない。

一方の 1,200 人の殺されたパレスチナ人はどうか？ 誰が知るものか。ワシントンも、英首相も、もちろんイスラエル首相も、知ったことではない。イスラエルと偉大な道徳的西側にとって、1,200 の殺されたパレスチナ人は勘定に入らない。彼らは風に飛ぶもみ殻のようなものだ。

イスラエルがガザの市民を攻撃した最近の折、彼自身シオニストである有名なイスラエルの法学者が、イスラエルが戦争犯罪を行ったとする、国連あての告訴状を用意した。イスラエルの注文に応じて、臆病だがとても従順な米議会は、このすぐれた法学者を、純粋で潔白なイスラエル政府の名誉を棄損する者として、弾劾する決議をした。ワシントンとイスラエルの、この法学者に対する圧力は、彼の真理への決意を鈍らせ、彼は告訴状を取り下げた。

これこそまさに、イスラエル・ロビーと臆病なアメリカの体制メディアが、イスラエルの人道に対する犯罪と、ワシントンのイスラエル犯罪の保護を批判するすべての人々に対して、やっていることである。イスラエル・ロビーによって攻撃されている人物がいたら、間違いなくその人は“地の塩”と言うべき人である。道徳的人間の際立った特徴は、イスラエル・ロビーとアメリカの体制メディアの攻撃を受けることである。

ワシントンは、ウクライナに住み、自分の国のワシントンによる篡奪に反対する人々を、“テロリスト”であると宣言し、“テロリスト”を弾圧するために米軍隊がウクライナに踏み込むことを、合法化できるよう法整備を狙っている。

英国市民として意見を表明する自由をもつ、英国会議員の **David Ward** は、もし自分がイスラエルに苦しめられるガザに住んでいたら、イスラエルにロケット弾を撃ち込むだろうと言った。

英国メディアと政府は、イスラエルの犯罪を非難したことがないにもかかわらず、たちどころにウォードを、その“口汚いコメント”のゆえに攻撃した。保守派の議員である **Nadhim Zahawi** は、首都警察に手紙を書き、ウォードの言葉を“ゆるがせに出来ないこと”として調査するよう求めた。保守党党首の **Grant Shapps** は、ウォードの言葉を“暴力の教唆”、重罪であると宣言した。臆病な労働党は、ウォードの見解を“口汚く無責任で背徳的”だと評した。 <http://rt.com/uk/174920-david-ward-israel-tweet/>

ウォードの所属する自由民主党は、この言葉を非難し、彼を懲戒公聴会に呼び、永久除名するかもしれないと言っている。

これが実情である。言論の自由を発明した国の国会議員が、正直に考えを表明する。すると彼は生きていけなくなる。ウォードの無害の言葉は誰ひとり殺していない。ワシントンに武器を与えられたイスラエル人は、いまこれを書いている段階で 1,200 人以上を殺している。しかし懲戒の対象になるのはウォードであって、イスラエルではない。

アメリカもイギリスも、探求の自由と、見解を述べる自由をもち、真理を恐れる国家ではないかのように言っている。それはすべて大嘘である。

米と英はこの地上で、言論の自由に対する最大の脅威となっている 2 国である。英では国の路線に合わない真理は許されず、米では真理を話す者は「監視リスト」に載る。

世界の残りの国々の政府は、あとどれくらい米と英を、言論の自由と、高い西側道徳の祖国として見るだろうか？

アメリカでは、イスラエルの宣伝の効果——もちろん米メディアによって疑われることはない——はワシントン自身の宣伝よりうまくいっている。ほとんどのアメリカ人は、パレスチナの女や子供は爆弾を隠し持って、イスラエルのカフェなどに“蛇のように”潜入し、自他ともに吹っ飛ばすのだと考えている。

実のところは、パレスチナ人はイスラエルに潜り込むことはできない。ガザは、西岸の他のパレスチナ居住地と同様、完全に防壁がめぐらされている。イスラエルはパレスチナのほとんどすべてを奪っている。存在を許されているわずかのパレスチナ居住地は、巨大な壁によってイスラエルから遮断され、有刺鉄線とチェック・ポイントとによって隔離され、病院も学校も、水道も、畑もオリーブ林も隔離されていて、オリーブ畑などは住民のアパートを作るために破壊されている。

このように閉じ込められた人々は全く無力であり、極右のイスラエル住民はわずかに残ったパレスチナ居住地へと移動し、パレスチナのオリーブの木を引き抜き、彼らの家を壊すために特別に考案された米国供与のキャタピラ・トラクターの助けを借りて、パレスチナ人を彼らの土地から追い払っている。それは抗議のために立ち上がった米市民 **Rachel Corrie** を平然とひき殺した、イスラエルのキャタピラ・トラクターと同じものだ。偉大な道徳的米政府はそれをどうすることもなかった。イスラエルは、1967 年、USS Liberty (米海軍技術調査艦リバティ号) の乗組員を殺したとき、ワシントンから米国市民を殺す白紙委任状

を自分たちが与えられていることを知ったのだった。

イスラエルの攻撃を受けたパレスチナ人の写真を見たとき、何が見えるか？ それは死んだ子供を抱き、お互い同士抱き合っていて泣いている武器をもたない人々である。次のイスラエルの攻撃を撃退しようと、武器をもって構えている人々の姿は見えない。見えるのは荒廃した病院、学校、アパート群、そして涙にくれ武器をもたないパレスチナ人である。

イスラエルのプロパガンダが成功している顕著な点は、すべての証拠が、パレスチナ人は抵抗できない平和主義者であることを示している点である。ガザの人々の大多数は、土地と家をイスラエルという偉大な民主国家に奪われた西岸地区からの避難民である。イスラエルによるパレスチナ破壊は、ほとんど 70 年続いている。それでもパレスチナ人たちは武器を持たず、有効な軍隊も持っていない。

70 年経ってもパレスチナの人々は丸腰のままである。ハマスはわずかのあまり有効でない武器をもっているが、民衆自身は武器をもたない。子供、妻、夫、親、兄弟や友人を殺された彼らの反応は泣くことだけである。この反応は好戦的な人々のものではない。

パレスチナ人はイスラエルにとって脅威であるという、洗脳による西側の見方は、馬鹿げている。もしパレスチナ人がイスラエルにとって危険な存在であるというなら、彼らが自分の国の内部の閉ざされたゲッターに押し込められ、あるいは外国の難民キャンプに追いやられているという事情が、どうして存在するのかわからない。

イスラエルの最もすぐれた歴史家である **Ilan Pappé** が語っているように、イスラエルの物語は「パレスチナの民族浄化」の物語である。この物語は、西側の“道徳的”政府たちによって、また腐敗した西側メディアや、西側民族の“キリスト教”聖職者によって隠ぺいされてきた。聖職者たちはおそらく反対したであろう。しかしあまりにも洗脳と情報攪乱が行き届いていて、彼らは事実を知らないのである。